

Q1:「あなたにとって土木学会とは

No	投稿者	職種	年代	マイナスの意見	プラスの意見	キーワード	タイトル	内容
1	k				情報収集の場			様々な情報取得の場。土木技術者として、入会必須な環境。
2	入社7年目(鹿島建設)	建設業	7年目	実務とのかい離	情報収集の場	土木学会誌	あなたにとって土木学会とは？	「身近にあるが忙しさと深くかかわらない存在」というのが本音です。業務の異動時期などゆとりのあるときには、「土木の今のトレンド」をつかむという意味で、土木学会誌を読んでいます。
3	入社6年目(鹿島建設)	建設業	6年目	実務とのかい離	情報収集の場			現場勤務ですと、学会自体は遠い存在です。ほぼ接点がないのが現状です。FaceBOOKで登録してありますがたまに見る程度です。もっと現場業務に即した(といっても色々な現場があり正直難しいとは思いますが…)というより、現場にいる人間が「さすが土木学会、こういった情報がましかつた」という風になれればいいかと思えます。
4	Kodok				論文発表の場		私にとっての土木学会！？	土木学会もそれほど悪くありません。
5	kjm08				情報収集の場	土木学会誌		論文発表の場。個人としては、それ以上の価値が見いだせない。
6	28歳 建設業	建設業	28歳		情報収集の場		私にとっての土木学会	学会誌から有益情報を得られることがあるが、執筆している方は若手とかけ離れた立場が多いため、抵抗もある。
7	鹿島	建設業		実務とのかい離	論文発表の場		あなたにとって土木学会とは？	土木技術者としての必要な知識や見識を深める場
8	建設業10年次	建設業	10年次		活動の場		A1, A2	大学時代は論文や学会等を積極的に活用していたが、現状「施工者」としての立場から見たときに、学会にしても学会誌にしても、業務とは少しかけ離れた内容のものが多く、以前に比べ興味が薄れていった感がある。
9	建設業11年目	建設業	11年目	実務とのかい離	情報収集の場	土木学会誌		特に学会誌だが、土木といっても幅広いジャンル(立場や職種)があるので、例えば月ごとに、発注者(国・民間)、施工者(ゼネコンから地元建設会社まで)、コンサル等にフォーカスした内容にしたり、工種に絞った内容にすれば、個人的には興味が湧くし、土木を知らない人や志す人、就職に悩む人にも有益な情報源になるのでは？
10	土木屋11年目	土木屋	11年目	実務とのかい離	論文発表の場			Q1:あなたにとって土木学会とは？ ・工事・設計の基準をつくる場 ・研究発表の場
11	OKUSANN				論文発表の場	土木学会誌	あなたにとって土木学会とは？	Q2:イベント参加できない人・社会人にとっての土木学会のメリット ・月刊誌を読むこと、だけになっているには費用が高い ・メリット、というか通達による加入ノルマ、
12	土木屋	土木屋			論文発表の場			現場にいる環境では、「土木学会＝月1回の学会誌を送付してくれる機関」といった感じ。あまり接点を感じることがないように思います。
13	ゼネコン4年目	ゼネコン	4年目		会員交流の場		土木学会とは	土木技術者の集いの場。そこでのコミュニティや学会、論文を通して技術を発信し、知識を得て、議論をし、進化していける場所であると考えます
14	土木屋39年目	土木屋	39年目		活動の場			企業を離れ、個人として活動できる場。
15	建設業10年目	建設業	10年目		論文発表の場	土木学会誌		多様な人と出会い、純粋に議論できる場。
16	コンサルタント21年目	コンサルタント	21年目		論文発表の場		自己研鑽のための有効なツール	本社内部門にいるときは、学会発表や講習会、委員会に参加する機会もたまにあるが、現場にいるときは、学会誌が送られてくる(けどほとんど読まない)だけです。
17	藤田 俊英	コンサルタント委員会BC研究小委員会委員長	66歳		活動の場		土木学会とは	どちらにせよ、会社からの呼びかけもあり「とりあえず入会している」という感じで、12,000円分のメリットはあまり感じません。
18	ゼネコン40代	ゼネコン	40代		会員交流の場		土木技術者集団	論文の発表、委員会への参加などを通じた自己研鑽の有効なツールではないかと考えています。
19	大学の研究員2年目(29)	大学の研究員	29歳		情報収集の場		学会	アメリカの土木学会(ASCE)の様に、土木界のロビー団体としての機能も持つことができれば、更に存在価値が増すのではないかと思います。
20	コンサル40代	コンサル	40代		論文発表の場			老後の社会貢献活動の舞台です。現在、66歳でコンサルタント委員会BC研究小委員会委員長、日本初の「土木の語り部」です。 http://oniashi.sunnyday.jp/
21	鹿島建設森口智聡	建設業			情報収集の場		関係の構築は本人次第	職種や年代を超えて土木技術者が集まる場だと思います。
22	建設業1年目	建設業	1年目		情報収集の場	土木学会誌	情報収集の場	技術者が集まって行動することで、土木界全体や、土木以外の社会全体に貢献できるといっています。
23	コンサル20代	コンサル	20代		情報収集の場			“学”を共通の目的として、産官学が集える場所を提供してくれる組織
24	建設コンサル32歳男	建設コンサル	32歳	学会との接点	活動の場		私にとっての土木学会	本学会の論文誌に論文が掲載されると、大学の土木科の先生から研究者として認識される
25	20代 ゼネコ	ゼネコン	20代		情報収集の場			土木技術者の自己(アイデンティティ)が確認できること
26	ゼネコン21年目	ゼネコン	21年目		会員交流の場		土木学会とは?	何にでも共通して言えますが、どんな素晴らしい組織やシステムであっても、それを活用するかどうかは本人次第だと思います。
27	土木屋11年目	土木屋	11年目		キャリア支援の場		学生との交流	土木関係者にとって、最大規模であり最高の権威を持っている組織である事実間違いなく、年代や業種を超えた方々と交流できる場であり、最新から過去のものまで幅広い知識を得ることができる場でもあると思います。
28	ゼネコン21年目	ゼネコン	21年目		情報収集の場		土木学会とは	土木に関する全ての人にとって、常時絶対必要であり常時利益享受できるもの(それは不可能だから)ではないとは思いますが、必要な時に深く関わり、業務上あまり必要でない時には浅く関わる等、自分の現状に合った活用が出来れば良いと思っています。
29	ゼネコン5年目	ゼネコン	5年目		情報収集の場	土木学会誌	学生時代と社会人で変化があり	土木学会は、一朝一夕で組織できるものではなく、継続と歴史があってこそ規模と権威が維持できると考えるため、土木業界に携わっていく上で必要な状況がある以上、その活動にある程度の協力が必要であると思います。

マイナスの意見	回答数	割合
実務とのかい離	5	17.2%
会費	3	10.3%
学会との接点	3	10.3%

プラスの意見	回答数	割合
情報収集の場	15	51.7%
論文発表の場	10	34.5%
活動の場	7	24.1%
会員交流の場	7	24.1%
講習会、セミナー	2	6.9%
キャリア支援の場	1	3.4%

キーワード	回答数	割合
土木学会誌	9	31.0%
他業界	0	0.0%
一般市民	0	0.0%
会員交流	0	0.0%

